

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H00515

研究課題名（和文）アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究

研究課題名（英文）Research in medical ethics, rules of medical practice and its ideological origins in the Asian traditional medicine

研究代表者

横手 裕（Yokote, Yutaka）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：10240201

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アジア諸地域の医学と思想文化を研究する約20名の研究者が参加して、アジアの伝統医学における医療倫理や医師の心得について、その思想的な背景も含めて明らかにすることを目指した。成果として、日本および東アジア諸国、インドとその周辺諸国の伝統医学における倫理観・倫理思想についてさまざまな角度から検討が行われ、各参加者により専門的な視点から論考が執筆された。また現在の日本、韓国、ベトナムの伝統医学教育機関における医療倫理教育についても幅広く調査が行われ、その実態の報告が作成された。これらは最終的に論文集として刊行された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来見過ごされてきたアジアの伝統医学における医療倫理について、日本・中国などの東アジアを中心としつつ、チベット、インド等まで含めて詳しい研究を行い、現代の医療倫理の検討にも参照価値のある成果を出すことを目標とした。コロナ禍により研究計画の大幅な変更はあったが、当初の目標は相応に達成されたと考える。

また、アジア諸地域の思想文化を専門とする人文学系の研究者に加え、医学部や医療機関に属する研究者や医療従事者も数多く参加し、意見交換を行いながら共同で活動を行う文理融合型研究であった。これもこの種のプロジェクトとしては類例が少なく、多面的で幅広い意義をもつ成果につながったと言える。

研究成果の概要（英文）：This research, conducted by about 20 scholars who are experts on medicine or thought culture of various Asian areas, was aiming at revealing ethics of medical practice or rules for doctors with its ideological origins in the Asian traditional medicine. As result, many studies were performed from various angles about morality and ethic thought in the traditional medicine of Japan, China, and India with their neighboring nations, then specialized papers were written by each participant. In addition, investigations of the medical ethic education in educational institutions for traditional medicine in current Japan, Korea, and Vietnam were performed widely, and reports of the actual situations were made. The above were finally compiled in the book and published.

研究分野：人文学

キーワード：医学倫理 東洋医学 中国医学 日本医学 インド医学 アジア医学

1. 研究開始当初の背景

以下、「伝統医学」という言葉を、第1回国際アジア伝統医学大会(1979年)において定義された「SWIMでないもの(SWIMとは、Science, Western Origin, Internationally distributed, Mordern content)」の意味によって用いる。「伝統医学」の類義語に、「代替医療 alternative medicine」や「民族医療 ethno medicine」などの言葉があり、それぞれ強調する部分が少しずつ違うが、おおもとのところはSWIMでないもの、という定義でカバーできよう。よって、日本をはじめとするアジア地域に西洋医学が入って以降の時代を対象としない。

「医療倫理」という言葉で示すところは、医学・医療とその現場に(行為を受けるものではなく)行為者として携わる者(医師など)の「志向倫理 Aspirational Ethics」と「予防倫理 Preventive Ethics」の両者とする。いわば「医学は何を志向し、何をやってはいけないことと考えているか」である。

さて今日、伝統医学の重要性は日々高まっているといつてよい。ICD-11(国際疾病分類)に中医学が取り入れられたばかりでなく、いわゆる医学の現場における日常的な治療に中医学が取り入れられ、それを医学の現場で合理的に活かすために、治効と治験についての研究は蓄積が進められている。

一方、いわゆる「医療倫理」といえば、「ヒポクラテスの誓い」に始まり、現代版「ヒポクラテスの誓い」といわれる1948年の「ジュネーブ条約」以降のそれらを指す。それらはいうまでもなく、SWIMの基づく倫理である。

医学の目的が、アーサー・クラインマンが『病いの語り』で記したように、「疾病の過程のコントロール」のみならず、患者における「疾病の経験のケア」も含むのであれば、「疾病の経験」は、医学が行われている土地の地域性や歴史・文化と不可分な状態で存在しているため、当然そのケアもそれらを踏まえて行われればより効果的なはずである。ことアジアにおいては、アジアの歴史と文化に基づいた「医療倫理」のあり方を確認する必要がある。アジアの思想と文化に即したそれを探し当てることは、「疾病の経験のケア」をより効果的に行うために役立つばかりでなく、医療と医療行為者それぞれのあり方への示唆を含んでいるとともに、「疾病の過程のコントロール」についてまでもヒントを提供し得る可能性を有している。

そればかりではない。基本的には、「医療行為者は何をすべきか、何をすべきではないか」が、伝統医学の中でどのように考えられており、またどのような思想的背景によって裏付けられているかを明らかにすることで、「医療倫理とは何か」そのものについて見直す機会が生じ得ることも、本研究の重要な目的と考え得る。

このようなアジアの伝統的な「医療倫理」に深い考察を加えつつ明確化する作業は、残念ながらこれまで、本邦のみならず世界的にみても、総合的に行われることはなかったと言ってよい。

2. 研究の目的

この見過ごされてきた伝統アジアの「医療倫理」に対し、日本・中国などの東アジアを中心としつつ、チベット、インド等まで含めて詳しい研究に着手し、現代の医療倫理の検討にも資する成果を出そうということこそ、本研究の目的であり、なおかつ従来なかった本研究の独創的かつ創造的な点にほかならない。

なお、日本を含めた東アジアの伝統的な文献の研究については、いまだに書誌に関するものが多く、その内容に踏み込んだ研究は少ないといえる。中医学の基本概念である陰陽や五行といった内容について論及されたとしても、それは十分に文献を読み込み、背景となる思想や文化を踏まえているわけではない。それはいわゆる「中医学」基礎理論の範疇として触れられているに過ぎず、伝統医学を育んだ道教や仏教、そして儒教などの背景との結びつきは、ほとんど考慮されていないといつてよい。この医学を生み育てた思想面を中心とする文化的背景を深く掘り下げて考察することも、本研究の特に重視した目的である。この点でも本研究は、伝統医学の文献研究に対しても独自性を有し、新たな局面を拓きうるものである。

このほか、医学部や医療機関に属する研究者や医療従事者も数多く参加し、意見を交わしながら共同で活動を行う文理融合型研究であることも、この種のプロジェクトとしては類例が少なく、本研究の重要な意義があると考えられる。

3. 研究の方法

(1)対象の範囲設定

本研究は、空間的には日本・中国・台湾・韓国・ベトナムの東アジアを中心としつつ、インド・チベット・ブータンを調査範囲とする。まずはこれらの非西洋のアジアにおける伝統的医療の倫理に共通する特徴はどのようなものか、そしてその中で各国・各地域の違いはいかなるものかについて、文献資料を精査することにより明らかにすることを基本とする。さらに、各国・各地域で伝統医療を継承する人々に対するフィールド調査も行う。そしてこれを総合的に検討することにより、アジア伝統の医療倫理を確認し、できる限り明確化することを試みる。対象とする範囲は大きいので、はじめから十分精密な成果を出すことはあるいは難しいかもしれないが、また日本

発のプロジェクトなので、アジアの中でも日本と東アジアに重点が置かれることになるが、世界で初の試みでもあるので、まずは一定の成果を出して今後につなげるだけでも十分意義があると考える。

なお、近代以降に西洋医学が導入されることで変化が生じているか、それはどこかを明らかにすることは次の課題とした。本研究ではまず、前近代に形成され展開したアジアの伝統的な医学と医療における倫理観に絞って明らかにすることを旨とした。

(2) 研究組織

研究の実施にあたっては、大きくは「文献調査組」「フィールド調査組」の二つに分かれ、文献調査組はさらに二つに分かれて活動を行った。

文献調査組の一つ目は、これまで歴史的な医学文献（医事文献）を研究対象としてきた研究者によって構成されるユニットであり、研究成果を活かして医療倫理と考える内容をピックアップし報告する。二つ目の調査組は、医療倫理の背景となる思想内容をさぐる。フィールド調査組は、東アジアの伝統医学教育において（特に伝統医学が制度化されている国を中心に）、現在、医療倫理がどう教えられているかについて調査を試みた。文献組が重視していなかった当該国ならではの資料が発掘されることを目指した。さらに日本において伝統医学教育を行う医療機関に対して、医療倫理の教育に関する大規模なアンケート調査の実施も行った。

大枠として上記のような分担で実施されるが、東アジアの伝統医学書が基本的に中国の伝統的な医書を踏まえることから、台湾・韓国・ベトナムについても、中国・日本の文献研究担当者が、当該国の担当者とともに自らの研究の一環として担当した。インド・チベット・ブータンに関しては、言語の問題をクリアした研究者に参加を依頼し、文献を精査して医療倫理を明らかにするとともに、フィールド調査も企画した。

さらに、医学教育の立場にある研究者を中心に、参加者全員が討論する場を設け、アジアの伝統医学とその思想的背景を踏まえた医療倫理の特徴と独自性を明らかにするための検討も行った。

本研究は、以下の研究代表者、研究分担者、研究協力者および海外協力者とともに進められた。科学研究費補助金の申請時から研究期間中にかけてメンバーに若干の増減があったが、最終的には下記の方々にご参加いただいた。

参加者役割分担表（分野ごとに、姓によって五十音順） 事務局

国	文献調査組		フィールド調査組
	医事文献	背景となる思想	
日本	マティアス・ヴィグル 鈴木達彦 松岡尚則	[儒教]入口敦志 [仏教]進藤浩司	形井秀一 並木隆雄 大沼由香 立石和子 岡田岳人 東郷俊宏 森口眞衣
中国	浦山きか 長谷部英一 横手裕	[儒教]井ノ口哲也 内山直樹 [道教]横手裕 [仏教]横手裕	浦山きか 松岡尚則 財吉拉胡
台湾			内山直樹 李建民
韓国	吉田和裕	金兌垠 (キム・テウン)	形井秀一 吉田和裕 Chang Shik YIN
ベトナム	浦山きか 長谷部英一	浦山きか 長谷部英一	浦山きか 形井秀一
インド	森口眞衣	菊谷竜太 西村直子	菊谷竜太
チベット・ブータン	西田文信	西田文信	西田文信

4. 研究成果

(1) 各年度の活動の概要

2019年度はおおむね順調に研究活動を進めることができたと言える。

夏休み中の8月2日（金）には第1回の全体集会を開催し、日本班およびインド・チベット・ブータン班の研究分担者（森口氏、進藤氏、西村氏）を中心に発表と活発な議論が行われた。また形井秀一氏により、日本においてこれまで研究が手薄であった韓国およびベトナムの伝統医学に関する調査を実現出来たことは、非常に重要な成果であった。第2回の全体集会は12月29日（日）に、海外協力者のサイジラホ（財吉拉胡）氏を招聘しつつ開催され、サイジラホ氏、西田氏、菊谷氏、形井氏、金氏、松岡氏による発表があった。

2020年度はコロナウイルスの影響が急拡大し、国内外の研究活動が大きく制限され、当初の予定の大きな変更を余儀なくされたが、予定していた2回の全体会をZoomによるオンライン開催として行った。第1回全体会は9月26日(土)に開催され、横手、内山氏、浦山氏の発表があり、あわせておよびコロナ禍の中でいかに研究を進めるか等について検討が行われた。第2回全体会は12月26日(土)に開催され、入口氏、マティアス氏の発表があった。

2021年度は引き続きコロナ禍の影響により、研究活動を十分予定通りに進めることができなかった。ただし、やはりオンラインによる全体会の開催は予定通り継続して行われた。第1回全体会は9月25日(土)に開催され、井ノ口氏、鈴木氏の発表があった。第2回全体会は12月12日(日)に開催され、長谷部氏、吉田氏の発表があった。

そしてコロナ禍の影響による研究計画の変更の影響により、やむなく研究期間を1年間延長し、2022年度には各組・各班・各構成員による研究の総括を行った。また本プロジェクトの最終成果の1つとして、社会鍼灸研究会と共同でシンポジウム「伝統医学における医の心得と医療倫理」がオンラインで開催された。事後のアーカイブ配信の視聴者を含めると100人近い参加者があり、予想外の反響が得られた。

(2)研究成果報告書としての論文集の刊行

研究代表者、研究分担者、研究協力者は各々研究成果として最終年度に論文を執筆し、それが論文集『アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究』(2023年2月)としてまとめられた。内容(目次)は以下の通りである。

はじめに 横手 裕

第一部 文献調査組 日本

山上憶良「沈痾自哀文」における漢籍の影響について 井ノ口哲也

17世紀日本における養生観の変遷 入口敦志

多賀印法流における救済の医学 進藤浩司

岡山市立図書館木畑文庫所蔵『肥州再春館学規』について 鈴木達彦

'Quacks', Good Physicians and the Medical Marketplace in Tokugawa Japan Mathias Vigouroux

第二部 文献調査組 中国・韓国

中国古代における生命と倫理 『呂氏春秋』春季諸篇を例として 内山直樹

『黄帝内経素問』における医師の行動規範と心得 浦山きか

宋・蘇軾における楞伽経跋』における『難経』 松岡尚則・永塚憲司・並木隆雄

明末清初の三教と医学と倫理 西昌居士喩昌を中心に 横手 裕

『東医宝鑑』の医学思想と宗教的倫理性 中韓医学の人体原理と宗教的理想との関係について 金 兌垠

第三部 文献調査組 インド・ブータン

疫病とブッタ 菊谷竜太

「はっきりと目に見えること」を問う意義 古代インドの呪法と医学との間 西村直子

ブータンの医学と医術 西田文信

第四部 フィールド調査組 現状調査と現代への考察

医学部と薬学部の伝統医学講義担当者を対象とした倫理教育に関するアンケート調査研究 並木隆雄・岡田岳人

看護系大学基礎教育における倫理教育の現状について 大沼由香・立石和子

はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師養成機関における医療倫理教育に関する調査 形井秀一

医学・医療と「倫理」の歴史的関係について 成立・方向性・範囲の変化 森口真衣

東洋医学の窓から見た患者、施術者の「物語」と倫理 多職種連携時代における鍼灸師の倫理教育 東郷俊宏

東アジアの伝統的な医書における「医の行動規範と心得」、そしてそれを教材にするために 浦山きか

あとがき 浦山きか

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 横手裕	4. 巻 なし
2. 論文標題 蘇軾の内丹説：その特徴と意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジアの王権と秩序－思想・宗教・儀礼を中心として	6. 最初と最後の頁 465-480
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根津雅彦、鈴木達彦、平崎能郎、並木隆雄	4. 巻 72(4)
2. 論文標題 インフルエンザなどの急性ウイルス性呼吸器感染症パンデミック/エピデミックに対する和漢治療の歴史 麻黄の品質とその治療効果への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本東洋医学雑誌	6. 最初と最後の頁 420-451
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷部英一	4. 巻 なし
2. 論文標題 中国古代における改暦思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジアの王権と秩序－思想・宗教・儀礼を中心として	6. 最初と最後の頁 129-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井ノ口哲也	4. 巻 64
2. 論文標題 徳治の構造	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 紀要 哲学（中央大学文学部）	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 竜太	4. 巻 10
2. 論文標題 ヤショーパドラ『金剛句心髓集難語釈』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Newsletter Baudhakosa	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 13
2. 論文標題 レブチャ語ガントク方言音韻体系試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 179-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 形井 秀一	4. 巻 47(3)
2. 論文標題 COVID-19と「養生」の思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伝統鍼灸	6. 最初と最後の頁 183-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐竹正延, 石母田由美子, 立石和子, 井上由紀子, 大沼由香, 菊地真, 熊谷英樹, 鈴木慈子, 宮崎智子, 富士原秀, 佐藤喜根子	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行時における、仙台赤門短期大学の対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内山 直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 従「道事」到「記言」？ 漢代『尚書』觀的一斑	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第十、十一届中国經学国際学術検討会論文選集	6. 最初と最後の頁 245-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池 潤, 並木 隆雄, 藤田 尚, 岡本 英輝, 平崎 能郎, 杉森 裕樹	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 漢方診療外来における電話相談対応の実態調査研究－外来看護師が感じる対応困難の影響要因とその対処方法－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本東洋医学雑誌	6. 最初と最後の頁 185-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井ノ口哲也	4. 巻 249
2. 論文標題 劉キンの学問	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森口眞衣	4. 巻 9
2. 論文標題 「東洋医学」をめぐる文脈の問題：概念と名辞の関係整理について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道生命倫理研究	6. 最初と最後の頁 10-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浦山きか	4. 巻 220
2. 論文標題 伝統医学における医の倫理 治療者と患者	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経絡治療	6. 最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入口敦志	4. 巻 13
2. 論文標題 記憶の文体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井ノ口哲也	4. 巻 1
2. 論文標題 王充的“自然”観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老子道文化研究	6. 最初と最後の頁 49-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yagi A, Hayasaka S, Ojima T, Sasaki Y, Tsuji T, Miyaguni Y, Nagamine Y, Namiki T, Kondo K	4. 巻 05;29(12)
2. 論文標題 Bathing Frequency and Onset of Functional Disability Among Japanese Older Adults: A Prospective 3-Year Cohort Study From the JAGES.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of epidemiology	6. 最初と最後の頁 451-456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20180123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 達磨の導引：易筋経と三教交渉
3. 学会等名 東方学会シンポジウム「儒・道二教と仏教：三教交渉を再考する」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浦山きか
2. 発表標題 『養生要集』の復元と医学思想
3. 学会等名 第69回東北中国学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浦山きか
2. 発表標題 『海上懶翁医宗心領』の「内経要旨」について
3. 学会等名 第122回日本医史学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内山直樹
2. 発表標題 礼経与礼容 西漢初期礼学之一斑
3. 学会等名 2021東亞人文論壇－東方文明与生命哲学国際學術検討会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ヴィグル・マティアス
2. 発表標題 近世・近代期筆談記録が語る東アジアの医学・学術交流
3. 学会等名 東亜筆談研究会（浙江大学）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 並木隆雄
2. 発表標題 次世代に継ぐ卒前卒後漢方医学教育2
3. 学会等名 第71回日本東洋医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 説一切有部と防護聖典
3. 学会等名 印度学宗教学会第62回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 Parajika（波羅夷）第3条，殺戒について
3. 学会等名 第62回印度学宗教学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 立石和子, 大沼由香, 浦山きか, 横手裕
2. 発表標題 看護系大学における「倫理」教育の現状 Web データからみた科目の種類と位置づけ
3. 学会等名 第3回日本伝統医療看護連携学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田 岳人, 並木 隆雄, 峠 隆之, 金谷 重彦
2. 発表標題 MS分析と教師あり学習による柴胡剤の化学フィンガープリントと「証」の相関解析
3. 学会等名 日本生薬学会第67回年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 《道藏》日本宮内廳藏本成書相關問題一考：從圖像資料談起
3. 学会等名 道教與物質文化：圖像、藝術、神話 與文學論壇（台湾・国立政治大学）（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 内山直樹
2. 発表標題 戦陣の養生訓 『砦艸』の世界
3. 学会等名 (公財) 武田科学振興財団杏雨書屋研究講演会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 張 天昭, 並木隆雄
2. 発表標題 漢方エキス剤の吸湿度について－使用期限内と使用期限外の製剤での比較
3. 学会等名 第37回和漢医薬学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口眞衣
2. 発表標題 日本における東洋医学とアークユルヴェーダの位置づけをめぐって
3. 学会等名 北海道生命倫理研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村直子
2. 発表標題 新月祭満月祭の諸問題
3. 学会等名 第2回「新ブラフマニズムとヒンドゥイズム」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 マンデビ語における幼児語の言語特徴について
3. 学会等名 先住民言語文化研究会第3回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 日本未公開道蔵二種初探
3. 学会等名 2019中国渦陽老子道文化國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内山直樹
2. 発表標題 日本江戸時代の戦陣医学 原南陽『砦草』簡介
3. 学会等名 東亜人文論壇 東方文化与性命哲学國際學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 入口敦志
2. 発表標題 国文研数拠庫中心医学書籍
3. 学会等名 中日韓三国医薬文化交流及古籍研究系列學術報告会（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 並木隆雄
2. 発表標題 伝統医学の診断機器関連（WG4）の標準化の現状・まとめ
3. 学会等名 第70回日本東洋医学会學術總會
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 ヴィグル・マティアス	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 292
3. 書名 近世・近代期筆談記録が語る東アジアの医学・学术交流	

1. 著者名 井ノ口哲也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 道德教育と中国思想	

1. 著者名 形井秀一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 104
3. 書名 カラーアトラス取穴法 第3版	

1. 著者名 並木隆雄監修 鈴木達彦編集	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医聖社	5. 総ページ数 137
3. 書名 腹診のエビデンス 江戸版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浦山 きか (URAYAMA KIKI) (50823407)	東北大学・学術資源研究公開センター・協力研究員 (11301)	
研究分担者	内山 直樹 (UCHIYAMA NAOKI) (20449284)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	松岡 尚則 (MATSUOKA TAKANORI) (90403881)	公益財団法人 研医会・その他部局等・研究員(移行) (72659)	
研究分担者	VIGOUROUX MATHIAS (VIGOUROUX MATHIAS) (50803326)	二松學舎大學・文学部・講師 (32664)	
研究分担者	鈴木 達彦 (SUZUKI TATSUHIKO) (70737824)	帝京平成大学・薬学部・准教授 (32511)	
研究分担者	入口 敦志 (IRIGUCHI ATSUSHI) (80243872)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	並木 隆雄 (NAMIKI TAKAO) (20312001)	千葉大学・大学院医学研究院・准教授 (12501)	
研究分担者	長谷部 英一 (HASEBE EIICHI) (00251380)	横浜国立大学・大学院環境情報研究院・准教授 (12701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井ノ口 哲也 (INOKUCHI TETSUYA) (30376842)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究分担者	森口 眞衣 (MORIGUCHI MAI) (80528240)	日本医療大学・保健医療学部・教授 (30127)	
研究分担者	菊谷 竜太 (KIKUYA RYUTA) (50526671)	京都大学・白眉センター・特定准教授 (14301)	
研究分担者	西村 直子 (NISHIMURA NAOKO) (90372284)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	西田 文信 (NISHIDA FUMINOBU) (40364905)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	形井 秀一 (KATAI SHUICHI) (10248742)	筑波技術大学・その他部局等・名誉教授 (12103)	
研究分担者	大沼 由香 (ONUMA YUKA) (30597381)	岩手保健医療大学・看護学部・教授 (31204)	
研究分担者	立石 和子 (TATEISHI KAZUKO) (80325472)	産業医科大学・産業保健学部・教授 (37116)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 岳人 (OKADA TAKETO) (60412392)	徳島文理大学・薬学部・助教 (36102)	
研究分担者	本村 昌文 (MOTOMURA MASAFUMI) (80322973)	岡山大学・ヘルスシステム統合科学研究科・教授 (15301)	削除：2019年9月17日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	進藤 浩司 (SHINDO HIROSHI)	愛知学院大学	
研究協力者	吉田 和裕 (YOSHIDA KAZUHIRO)	順天堂大学	
研究協力者	金 兌垠 (KIM TAE-EUN)		
研究協力者	東郷 俊宏 (TOGO TOSHIHIRO)	順天堂大学	
研究協力者	小野 直哉 (ONO NAOYA)	未来工学研究所	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	坂部 昌明 (SAKABE MASAOKI)	森ノ宮医療大学	
研究協力者	山下 仁 (YAMASHITA HITOSHI)	森ノ宮医療大学	
研究協力者	財吉拉胡 (SAIJIRAHU BUYANCHUGLA)	中国・内蒙古民族大学	
研究協力者	印 昌植 (YIN CHANGSHIK)	韓国・慶熙大学	
研究協力者	李 建民 (LI JIANMIN)	台湾・中央研究院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 医倫プロジェクト・社会鍼灸研究会共催シンポジウム「伝統医学における医の心得と医療倫理」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 医倫プロジェクト第1回全体集会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 医倫プロジェクト第2回全体集会	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

韓国	慶熙大学校韓医科大学			
ベトナム	ベトナム伝統医薬大学			
中国	内蒙古民族大学蒙医学院			